

上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

大船山

第 13 号

令和 4 年 10 月 27 日

ホームページアドレス <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>

「働く」とは「人のために働く」「^{はた}^{らく}傍が楽になる」こと

校 長 細江 幸次

10月19～21日に中学校の職場体験学習として2名の中学生(2年生)が上矢作小学校に来てくれました。この職場体験学習は多くの中学校でキャリア教育の1つとして取り入れられていますが、まだ始まって20年余の教育活動です。私が中学生の頃には、勿論このような活動はありませんでしたし、初めて赴任した中学校(31年前)にもなかった活動です。また、小学校からのキャリア教育にも熱い視線が注がれています。

私の場合、学校とは関係なく、小学校中・高学年時の休日に父親の作業現場についていったことが何度かあります。父親は土木建築に関わる仕事をしており、天気に左右される仕事のためか、日曜日であっても仕事に行くことがしょっちゅうでした。仕事についていくたびに、「こんなキツイ仕事をしているのか。」とか、「(高所等)こんな恐ろしいところで作業をしなければならないのか。」ということを見ることができ、少しばかりの作業体験から感じ取り、働くこと、お金を稼ぐことは大変なことなんだということを小学生なりに理解していたと思います。

私がまだ担任をもっていた頃、ある校長先生が、『働く』ことは『人』のために『動く』ことと話されていました。また、ある校長先生は、「傍(はた=周りにいる人、他人)を楽にすること」とも話されていました。ある時、そんなことを思い出して調べてみると、確かに諸説ある中でどちらも「はたらく」の語源として紹介されています。小学生の上矢作っ子に将来の仕事(職業)を考えることは、知らないことも多いのでまだ早いかもしれませんが、「働く」ことをお世話になった校長先生の言葉のようにとらえると、家での役割(お手伝い等)や学校での役割(日直や係、委員会の仕事等)に重ねて考えることができると思います。

家族の一員として何か役割をもち、仕事をやりきって家族の役に立ったという体験をし、そのことに対して周りの家族が感謝の気持ちを伝えることで子どもたちは達成感や成就感を味わうことができます。「楽」という文字は「楽しい」という言葉にも使われ、周りの人たちから感謝される、喜んでもらえると、「はたらいた本人」も喜びを感じ、自己有用感という「楽しい」気持ちにもなります。

「はたらく」ということは現在では「お金を稼ぐ」という言葉に言い換えられるように賃金労働を指すことが多いのですが、ずっと以前からお金をもらわなくても、家族や地域のために何かすることも「はたらく」と言ってきました。いずれの「はたらく」にも共通することは、「気が利く」という思いやりの心が必要だということです。その思いやりの心が周りの人たちの信頼につながり、頼られるようになってきます。そんな関係は時として大きな仕事が自分に舞い込むことにつながり、幸運に恵まれることにもなります。それは秀吉が身分の低い時代に信長の草履を懷で温めた逸話からもわかるかと思いますが、私たちが日常行っている様々な「はたらく」はこんな「楽になる」「楽しくなる」関係に基づいて行われているのかもしれませんが、文集などに小学生が考える将来の夢として、「プロ・スポーツ選手になる」「社長になる」「大金持ちになる」……というのをよく見かけますが、そうなるための努力や今やるべきことに目を向けさせていくことも必要になってくると考えています。

現在、小学校からのキャリア教育の大切さがいろいろなところで言われていますが、その根底にある、このような普段あまり意識することがない事実を目に向けさせ、きちんと子どもたちに知らせていかなければならないと考えています。

